

県内小中学校 変わるトイレ事情

鳥取県内の小中学校でトイレの洋式化が進んでいる。和式の苦手な子どもが増えているため、教職員や保護者らの要望も多い。様変わりする学校のトイレ事情を探った。  
(西部本社・田村彰彦)

話題を追う

米子市は本年度の新規事業に洋式化の予算を計上した。新たに小中学校12校の28カ所で改修。洋式トイレがゼロの学校はなく、洋式化率は30・1%となる。

「トイレを我慢する子が増えているのか心配。いきなりだけ改修を進めてほしい」。市小中PTA連合会の山口一樹会長(52)は洋式化を歓迎する。  
市教委総務教育課は洋式化の背景について「和式を使ったことがない子どもが多い」と説明。総務省の調査に

進む洋式化 「100%」望む声も

9/12 日曜日

よると、家庭トイレの約9割が洋式だ。弓ヶ浜小は洋式化率が57・9%と市内で最も高い。岸信秀一校長(60)は「小学1年が学校生活に慣れる環境づくりは大切。洋式化はその一つにもなる」と話す。

5年で倍増

3K(汚い、臭い、暗い)のイメージが付きまとう学校トイレ。トイレ関連企業でつくる「学校のトイレ研究会」(東京)が全国の小中学校教諭らに聞き取りをしたところ、改善の必要な場所は「トイレ」が最多だった。

ネックは予算 和式派も根強く

我慢が続くと、授業に集中できず、健康を損なう恐れもあるという。河村浩事務局長(50)は「学校は高齢者を含む地域住民の利用が増えているほか、災害時の避難拠点になるため、バリアフリー化の観点からも洋式化率100%が好ましい」と訴える。

洋式化を進めようと、自治体は校舎の建て替えや耐震補強工事と併せてトイレ改修を実施している。境港市の洋式化率は小学校37%、中学校42%で、この5年間で倍増した。鳥取、倉吉両市は設置箇所を把握していないが、いずれの担当者も「増えている」と分析する。

米子市では「足をけがした子は和式を使えない」「妊娠中の女性教諭に配慮した洋式化を」などの声が寄せられている。トイレ床を水清掃する従来の「湿式」は菌が繁殖しやすい、悪臭の原因とされることから、洋式化と同時に「乾式」の床に切り替えている。

「大便の個室に入ると友人にからかわれる」。男子からはそんな悩みも聞こえ、男子トイレの小便器をなくして洋式の個室化した学校もある。

混在がルール

しかし、予算不足が増えているほか、洋式化をちゅうちよさせている。研究会によると、経費は4階建てで4千万〜5千万円。鳥取市教委総務課は「震災後は耐震化に特化した工事を重視しており、限られた予算枠ではトイレなどの改修が後回しになる」と悩みを漏らす。

教育現場ではオール洋式化に抵抗があるのも実態だ。他人が座った後の便座シートを使いたくないという「和式派」が少なくないため、鳥取市が改修する場合はほぼ半数の和洋混在。境港市も男子は和式1に対して洋式2、女子は和式1に対して洋式5にしている。

建設時期が古い公共施設はまだまだ和式が主流となっており、岸信校長は「和式をまったく知らないよりは経験した方がいい」と指摘している。



洋式トイレを掃除する子どもたち＝米子市内の小中学校